

学びのデザインシート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想 【外国語科／コミュニケーション英語ⅠⅡ演習】

1. 対象：〇〇科〇〇クラス40名（男子25名 女子15名）

進学クラスであるが、実際の進路は就職予定者14名、進学希望26名（四大希望は4名）と多岐にわたる。英語の授業への関心や意欲は、比較的高いと言える。

CEFR：A1レベル。英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）については個人内差が大きい。ペアやグループワークの際もペアやグループによって取り組む姿勢や態度に差がある。

2. 単元名「Lesson 9 Changing Feelings」（COMET English CommunicationⅡ 数研出版）（全10時間）

3. 単元目標

ネガティブな感情やマイナス思考、そこから脱却するための方法について理解し、自分の周りにいる人がマイナス思考になったときに与える助言について書くことができる。

4. 本時の目標（9/10）

マイナス思考から脱却する方法について考え、落ち込んでいる担任の先生への助言を書くことができる。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

“Write a message to 〇〇 sensei, who is depressed because he hasn't had a girlfriend for one year.”
ここ1年ほど彼女がいなくて、落ち込んでいる担任の〇〇先生に、英語でメッセージを書こう。
（〇〇先生はALTの△△と簡単な英語で話ができるくらいの英語力の持ち主なので、英語で書こう）

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
【L9のまとめのワークシート】 CASE1, 2について ① What happened ② What he/she thought ③ Other possible ways of thinking をまとめた表。	【当日のワークシート Task 4】 〇〇先生についてまとめた表。の ③と④	【メッセージのモデル文】 （当日のワークシートの右下） CASE 2について、このような友人に送るメッセージのモデル文。 （ALTによるもの）
想定される活動A	想定される活動B	想定される活動C
CASE1, 2の①②③をもとにして、〇〇先生のCASEについて、③ Other possible ways of thinkingを書く。	CASE1, 2を参考にして、〇〇先生のCASEの③other possible ways of thinkingを記入する。 さらに「④気分を変えるために何をすべきか」も書く。	モデル文を参考にして、メッセージを作成する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※ワークシートに沿って活動する。

Task 1 ○○ sensei is depressed because he hasn't had a girlfriend for one year.

What kind of message will you write to him? (○○先生にどんなメッセージを送りたいか)

教員と生徒→ペア (生徒同士)

まず今日の目標を提示。ここでの生徒の発話を記録し、授業の最初と最後での変化を見る。教員と生徒でやりとりするときに、日本語を英語にするなど、出てきた表現を板書する。生徒同士では、板書を参考に英語でやりとりさせる。

Task 2 When do you feel depressed the most? (どんなときにいちばん落ち込むか)

個人→ペア→シェア (全体シェア)

できるだけ日本語を使わない、英語での活動にしたいので、教科書p.99 “What do you want?” ①にある3つの表現や、次のTaskで使用する表現から選ばせる。(次の活動へつなげる)

Task 3 When you are depressed, what kind of message do you want to receive?

(落ち込んでいるとき、「どんなメッセージをもらいたいか」)

教員と生徒→ペア→全体シェア。

先程と同様、教員と生徒でやりとりするときに、出てきた表現を英語にして板書する。生徒同士は、板書を参考に英語でやりとりさせる。

Task 4 Now, before you write a message, we have to prepare. (メッセージを作成する準備)

He thinks, “everything is going wrong for me.”という担任の先生のかげに対して、

“Other possible ways of thinking”として、(③)違った考え方を提案。(個人→) ペア→全体シェア

“What should he do to change his feeling?”(④) 気分を変えるために何をすべきかについて考える。(個人→) ペア→全体シェア

Task 5 Now, let's try to write a message to ○○ sensei.

(Task 4を参考にして、各自でメッセージを作成する)。

※ 対話の中から得たアイデアを用いて思考につなげるプロセスを重視する。生徒が英語で適切に伝えられない場合には簡単な英語に直すなどして支援する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

Task3 (落ち込んでいるときどんなメッセージをもらいたいか)

テストで0点: “You'll have another chance” “Don't worry” “Study more”

大切な試合で負けた: “You'll win next time” “Let's practice more”

“It's not your fault”

Task5 (話し合った内容を参考にして、自分からのメッセージを作成する) 最後の部分の記述に注目

・ I think you'll have another chance with another girl. Go to karaoke and sing a lot.

・ I think you should try to feel more confident. Go to the gym and buy nicer clothes.

育成すべき資質・能力 三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点

①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブな感情やマイナス思考、そこから脱却するための方法を理解している。 ・CASE2に対するメッセージ(モデル文)の概要を理解している。
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・メッセージの中に「違った考え方(プラスの考え)」を書くことができる。 ・モデル文を参考にして自分自身の考え(メッセージ)を表現することができる。
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・気分を変えるためにどんなことをすべきかを積極的に伝えようとしている。 ・実際に自分がマイナス思考になったときにどう対処すべきかについてのヒントを得ることができる。

授業実践振り返りシート（授業前後）

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え（あらわれ）を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	That's too bad. No problem. Next.	Are you OK? I think you are very cool. Improve yourself, and you will be happy.
Bさん	Don't worry. You will have a girlfriend.	Don't worry. You can make a girlfriend. But now, you can't because you are heavy than other teacher. So, you should continue work out, and you should be friendly. (原文のまま)
Cさん	You are still young. Find the chance. You can do without a girlfriend.	You are not the only one and you are cool. That's true. You should positive thinking. You can do it. (原文のまま)

授業設計の振り返り	
解決したい 課題や問い	"Write a message to ○ ○ sensei, who is depressed because he hasn't had a girlfriend for one year." 「落ち込んでいるクラス担任にメッセージを書こう」という身近でリアルな設定をした。これ自体は生徒の関心を引き、楽しみながら考えることにつながった。
考えるための材料	前時の授業のワークシート、本時のワークシート（5つのタスク）、モデルメッセージを用意した。材料としては十分であったと思われる。（これ以外に生徒は「電子辞書」を用意した。これ以外の授業のワークシートも使用していた。）
対話と思考	スモールステップを経て、ペアでの対話、教員と生徒の対話を進めていくことができた。できれば英語で生徒同士が対話できるとよかったが、実情を考えると「日本語の中に英語を交える」形式になっていた。
学習の成果	Task1 では簡単なフレーズのみ表現していたが、 Task5 ではサンプルメッセージを活用したり、途中の Task で板書された表現を使ってメッセージを書くことができた生徒が半数以上いた。